

私たちが支援した奨学生が著名な登山家に！

～シャルミラさんお話し会「私の登山には大義がある」～

4月7日(日)夕暮れ時の神奈川県民センター会議室は、ネパールの元奨学生シャルミラ・ラマさんを囲む人々の熱気に溢れていました。8,000メートルを超える世界の名峰エベレスト、アンナプルナなど4峰を踏破した女性登山家シャルミラさんが富士登山のため来日。支援してくれた地球の木の皆さんと交流したいという要望に応え、お話し会を開催しました。

2007年度幸せ分かち合いムーブメントの第一期奨学生11名のうちの1人だったシャルミラさんは、2人の妹の学費を稼ぐため、ポーターとして働くうちに、自分の体が登山に適していることを知ったそうです。結婚、出産を経て、夫からイラクに出稼ぎに行くように言われた時は、絶望感で自殺も考えた、と声を詰まらせた。

「地球の木の支援を受けてよかったことは？」という質問に対して、「苦難を乗り越えることができたのは、高校を卒業したことが自信になったから」というシャルミラさんの回答に、会場にいた誰もが「支援してよかった」と心から頷けたと思います。

一日に2,000人が海外に出稼ぎに行くネパール。女性も例外ではありません。危険が伴う出稼ぎに行くことなく、女性が自立して暮らせるようにと、自身が経営するカフェでパリスタを養成したり、登山ガイドになることを勧めたり、女性のエンパワメ

ントに貢献しつつ、女性たちのロールモデルとして、シャルミラさんの登山活動は続きます。14峰の踏破を目指して。

参加者の感想

▶ネパールに女性として生まれ、理不尽な壁に何度もぶち当たる。その度に考え、策を練り、決意し進む。山登りが、本当に彼女に合っていたのでしょう。体が心を鍛え、心が体を鍛え…。私たちの奨学金が、彼女のその後の人生を確かなものにするために役立ったのだとしたら、こんな嬉しいことはありません。

▶結婚後家事だけをする自分の生き方に希望を失ったところでは、言葉に詰まるシーンもあり、大いに共感しました。自分の自立だけでなく、ネパールの女性の自立を促す活動は素敵です。

▶「幸せ分かち合いムーブメント」がめざした「自分の運命は自分が決める」という目標を達成したシャルミラさんが、女性たちの自立を助ける活動をしていることが分かって嬉しかった。

(ネパールチーム 乳井 京子)



シャルミラさん

INFORMATION

★地球の木のプログラムは、みなさまの会費と寄付で支えられています

「ネパール・モニタリング報告会」と「ニルマラさんおしゃべり会」

ネパール極西部 教育支援のパートナー、ニルマラK.C.さんの来日に合わせ、報告会とおしゃべり会を同時開催！

日時 7月15日(月)13:30～16:30

場所 横浜市開港記念会館7号室 参加費 無料

ラオス図書プログラム

ラオスの子どもたちに本を届けたい！

送料ご寄付のお願い(目標金額7万円、8月31日まで)

コロナ禍以降、ラオスへの船便が再開していないため航空便送料のご寄付を募らせていただきます。ゆうちょ銀行の払込取扱票以外での振込み、クレジットカードでのご寄付についてはホームページをご覧ください。※目標金額を超えた場合は、ラオス図書プログラムの活動に活用させていただきます。

寄付方法

銀行 ゆうちょ銀行

口座 00260-5-14129

※払込取扱票をご使用いただき、通信欄に「ラオス絵本送料」と記載ください。

活動日誌(3月～5月抜粋)

■ 3月

- 9日 第1回臨時理事会
- 14日 ラオス図書貼付ボランティア
- 15日 会報誌95号発行
- 30日 第10回通常理事会

■ 4月

- 7日 元奨学生シャルミラさんお話し会
- 11日 ラオス図書貼付ボランティア
- 20日 第11回通常理事会
- 27日 期末監査

■ 5月

- 11日 第12回通常理事会
- 25日 第25回通常総会
- 28日 デポー展示会(のぼりと)
- 30日 ラオス図書貼付ボランティア

デポー展示会

▶6月14日(金) 東戸塚デポー

▶7月9日(火) つつじが丘デポー



No.96

2024.6.10

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- ホームページが新しくなりました..... 1
- ネパールプログラム..... 2
- ラオス図書プログラム..... 2
- ラオスプログラム..... 3
- 出前講座..... 3
- 多文化共生の地域づくり..... 3
- 私たちが支援した奨学生が著名な登山家に!..... 4
- インフォメーション/活動日誌..... 4

ホームページが新しくなりました
4月2日からホームページが生まれ変わりました
ぜひ、アクセスしてみてください!

新しいホームページURL <https://ngo-earthtree.org>

地球の木 で検索



なぜ、今回ホームページを新しくしたのか？

前のホームページは約10年前にHTMLというプログラムを組みながら作ったものです。当時はとても素晴らしいものでしたが、10年経ってそのプログラムを分ける人が殆どいなくなってしまい、新しい記事や画面構成に対応できない状態が長く続き、そろそろ限界とっていました。

また残念ながら地球の木は今、会員数がどんどん減少しています。その原因を考えると、会員の高齢化による退会と若い人をはじめとした新規の入会希望者が少ない、ということ。その一因は、「地球の木」の魅力が一般の人に十分に発信していくことができなかったからかもしれません。そのため、不特定多数の一般の人に魅力を発信する媒体として「ホームページ」を刷新することが重要になってきました。

ホームページの作成上、気を付けたこと

- 1) 地球の木のこと、ボランティアのこと、世界の情勢、日本における多文化共生などをご存じのない方にいかに分かりやすく、丁寧に、共感を持って伝えられるかに重きを置きました。
- 2) 文字が羅列されているホームページには興味を持ってもらえないので、できるだけ写真やイラストを多用し、特に動画(ムービー)を色々な活動紹介等に配置しました。これは過去の統計でホームページなどWEBサイトにアクセスした人がそのサイトを見てそこに留まるか、他のサイトに移るかの判断をする時間は「5秒間」というデータがあります。つまり5秒の間にいかに「地球の木」に興味を持ってもらえるかが鍵となります。そのため、ムービーや写真の力が重要でこれはとても有効な手段になります。

3) 以前の地球の木のホームページを継承するのではなく、これらをすべて捨てて、全く新しいホームページとして作り直す気概と作業が必要となります。従って他のボランティア団体や多数のNPO法人の素晴らしいホームページをいくつも参考にしました。そこから良いものを取り入れ、いかに「新しい地球の木」を演出できるデザイン、構成にするか、チーム内で議論を重ねました。

4) ホームページの閲覧は、70%の人が「パソコン」でなく「スマホ」を使っているため、「スマホ」画面を意識した構成が大事になります。

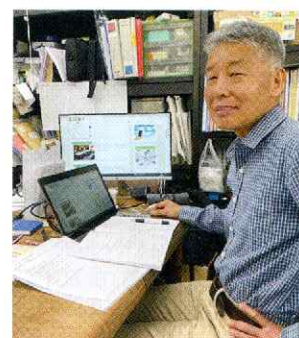
ホームページのこれから

とりあえず皆様のお手元に新しいホームページをお届けできましたが、これはスタートラインです。これからこれを使ってどんどん「地球の木」の魅力を発信していきたいので皆様のご投稿やアイデアをお待ちしています。どうぞよろしくお願います。

作成に携わったメンバー

このホームページは1年超の時間と各チームの協力があって完成しました。そしてボランティア技術者のKさんがソフトウェア周りの技術全般をサポートして下さいました。

皆様、大変ありがとうございました。



事務所で作業中の勝田さん

(ホームページチーム 勝田 文隆)

「質の高い教育」を広げます



乳井さん、SAGUNのマハントさん(左)とカマルさん

2024年度、ネパールチームはメールやオンライン会議、「ロシラハール(現地発行の地方情報誌)を読む会」などで現地の情報を丁寧に集めながら、「質の高い教育」への理解を深め、会報やホームページ、報告会などで発信していきます。

2024年度、ネパールの支援地インドラサロワール農村自治体(以下IRM)は、新たなフェーズに入りました。これまでIRMの4区と5区で行ってきた「質の高い教育」にフォーカスしたプログラムをIRM全体に広げようというチャレンジです。

パートナーNGO・SAGUNのマハントさんから、さっそくメールが来ました。



地球の木の皆さま、ナマステ

4月20日からの新学期スタートに伴い、4月23日、SAGUNはIRMと協力してすばらしいワークショップ兼ミーティングを開催しました。ワークショップのタイトルは、「科学と数学を実践的に教える方法」です。

6つの中学校から校長先生、科学の先生、学校運営委員会(SMC)委員長が参加して、各々の中学校でこれから3か月の間に実施する実践的な科学の授業とサイエンスエキシビション(科学展示会)の行動計画を立てました。このワークショップ兼ミーティングには、この企画を委託する教育専門機関BOSKエデュケーションのスタッフを含む20名が参加しました。

また、マハチュニ中学校の保護者会に参加します。保護者会では、州(一番大きな行政区分)の大臣が開会宣言をします。生徒たちは科学の授業でつくった作品を展示する予定です。大臣は科学教材を使って開会宣言をするのではないのでしょうか。

そして、学校長とSMCの立会いのもと、自治体の教育委員会と年間プログラムを共有しました。

地球の木の皆さまの温かいご支援に心からの感謝を送ります。

SAGUN マハント・バブー・マハルジャン

(ネパールチーム 乳井 京子)

3年間の活動を未来につなげる

ラオスの子どもたちが学校での学びを継続し、人生を切り拓くために、文字の習得は重要です。2024年度も、子どもたちが楽しみながら文字を覚えられよう、パートナーNGOのNPO法人「ラオスのこども」が行う、ラオスで身近な昔話絵本の再版を支援します。また、日本国内では、ラオス語翻訳貼付活動を継続するのに加えて、本プログラムの3年間の活動をまとめ、未来につなげる年にしたいと考えています。

<現地活動> 昔話絵本の出版支援

2024年度、再版を支援する本は『カンパーとピーノイ(孤児と小さいお化け)』。孤児のカンパーが、お化けのピーノイの命を助けたことで、お礼に豊かな田畑と家族を手に入れ、幸せに暮らすという物語です。ラオスで最も有名な昔話で、年齢を超えて人々に親しまれてきました。この本は図書室活動でも読み聞かせなどに利用される他、中等学校の「文学」の授業でも使用されています。



相馬さん

<国内活動> 3年間の活動総括

ラオス図書プログラムは3年目になりました。延べ160名以上のボランティアのご参加、300冊を超える絵本のご寄付をいただき、皆様と共に活動を進められていることに心から感謝しております。

2024年度は、今までに集まった絵本にラオス語翻訳貼付をするともに、絵本の補正作業を行います。また、夏休みの貼付活動では、ラオスの昔話の読み聞かせを通して、ラオスや絵本について考える機会となるようなイベントを行います。

そして、3年間の総括として、ボランティアの方の声と現地の声を集め、未来へつながら一歩を見つけていけるようにまとめていきたいと思っています。

絵本をラオスに送る送料のご寄付をお願いしています。詳しくは4ページをご覧ください

(ラオス図書チーム 相馬 淳子)

国内活動でもっと「ラオスを発信」していきます

2024年度も、日本国際ボランティアセンター(JVC)がラオスのセコン県で村人と共に進めている「土地や森、川などの共有資源を管理し、持続的に利用していくための活動」を支援していきます。また日本の私たちが、自然から、途上国から「奪わない暮らし」を取り戻すにはどうしたらよいか。この難問をみなさんと諦めることなく一緒に考えていきたいと思っています。そんな機会になればと次のようなイベントを企画しました。



中野さん

山室良平さん講演会「ラオス駐在8年を振り返って」8月24日(土) 横浜市開港記念会館

JVCの山室さんが今年4月に帰国されました。押し寄せる開発の波に洗われる村人の暮らしを共に守ろうという地道な支援活動。「こんなに頻りに村に来て一緒にいろいろやってくれるNGOは今までなかった」とは、多くの村人たちの感謝の言葉です。山室さんにこの貴重な体験を話していただく集いをJVCと共催で開きます。支援活動はもちろん、この間のラオスの社会の変化などについてもお聞きします。まだ馴染みの薄いラオスという国。さてさて、どんな話が聞けるか。どうぞお出かけ下さい。

秋の森歩き 第2回 「森に学ぶ」緑区「新治市民の森」

今年2月に開催した1回目は天候が悪く、森の中を散策できませんでした。それなら秋の森を、前回同様に「新治里山『わ』を広げる会」の吉武美保子さんと共に歩き、満喫したいと計画中です。ラオス人の森への想い、森の精霊ピーを深く信じて暮らす彼らの精神世界をも話題に、日本との比較など話し合ってみてみたいと思います。意外な共通点が見えてくるかも。どうぞお楽しみに。

(ラオスチーム 中野 真理子)

田島征三さんによるラオス森の絵本ついに出版!

きっかけは14年も前。森と共にあるラオスの人々の暮らしや想いをみんなに伝えたいと、絵本を思いつき、ラオスチームの一人が田島さんの絵の力をお借りできたらとラオスのスタディツアーにお誘いしました。田島さんは、ラオスの森のことを描くのならラオスのアーティストとコラボでと。そして、ルートマニーさんのオブジェを取り込んだユニークな絵本『森の歌がきこえる』が7月に偕成社から出版されます。多くの方に読んでいただきたいです。

2024年度は、こんな活動をします

出前講座

知り、考え、共に行動する力をつける



田中さん

出前講座チームでは、学校や地域などに出向いて、私たちの支援地ネパールやラオスなどで実際に起こっていることを元に作成したオリジナル教材などを使用した講座を実施しています。世界の現状と課題を知り、平和で公正な社会を築くために、課題解決に向けた行動へとつなげることをねらいとしています。

安く売られているバナナの向こう側の世界を知る「マジカルバナナ」、識字がテーマのネパールのワークショップ、森が失われる元となる経済開発や豊かさについて考える「ラオス 森を守る。暮らしを守る。」などの講座のほか、多文化共生の講座も準備中です。

依頼して下さっている学校などからは高い評価をいただいています。2024年度は、横浜市の国際交流ラウンジや多文化共生ラウンジなどとも連携して、学びの場を提供することができればと考えています。お知り合いの方などにぜひ、出前講座についてご紹介いただければ幸いです。どうぞお気軽にご相談ください。

(出前講座チーム 田中 浩平)

多文化共生の地域づくり

互いの文化を伝え合い、助け合える関係を



山田さん

2024年度は、「かながわネパール人コミュニティ」がチャレンジする「子ども向けネパール母語教室」のスタートをサポートするとともに、ネパール人の女性たちの交流の機会を作りたいです。会場は神奈川県多文化共生ラウンジで、7月から始まる予定です。

また、在日コリアンや外国籍の人びとが感じている「心の壁」「制度の壁」を解消していく活動を、様々な市民団体と連携して取り組みます。日本の社会全体に、在日コリアンや外国籍の人々に対する差別構造があります。この差別構造の解消を多くの市民とともに考え、外国籍や在日コリアンの人々と互いの文化を伝え合い助け合える関係をつくっていく活動を、他団体と連携してのイベントや学習会を通じて進めます。メールマガジン「Colorful World」で情報を発信するほか、11月30日(土)・12月1日(日)に開催される「あーすフェスタかながわ2024」にも参加します。

(多文化共生の地域づくりチーム 山田 孝志)